

1. 基本情報

評価対象年度 ( 令和2 年度)

施策コード	423	施策名	生活環境の保全
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)	
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち	
主担当部	市民環境部	主担当課	環境課

2. 施策の方向

10年後の姿	誰もが環境保全に関する知識を持ち、省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの利用が促進されており、環境にやさしい社会がつくられています。		
施策の方向性	1	省エネルギー活動や再生可能エネルギーの普及を促進します	
	2	大気汚染・有害化学物質・騒音などの公害から生活環境を守ります	
	3	環境に対する問題意識を啓発するため、情報や学習の場を提供します	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和2年度決算額
車両管理事業	1	総務課	13,760
飼い主のいない猫対策事業	2	環境課	52
環境保全啓発事業	1、2、3	環境課	4,319
総事業費(施策の合計)			18,131

4. まちづくり指標

指標情報				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度	令和7年度	
①	名称	市の事務事業における温室効果ガスの排出量(CO2排出量)削減率		目標値	15.0	15.0	15.2	15.7	16.0
	説明	平成27年度排出量を基準として5年間で目標値達成を目指す	単位 %	実績値	15.2	15.2(※2)			
	抽出方法	所管課統計		達成率	101.3%	101.3%			
②	名称	日頃から地域環境に配慮している人の割合		目標値	—	70.0	76.5	78.6	80.0
	説明	—		単位 %	実績値	67.0(※1)	76.5		
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	109.3%			

※1 平成29年度実績値  
 ※2 令和元年度実績値

5. 評価(令和2年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり指標の実績値が、目標値を上回っている。</li> <li>●温室効果ガスの排出量は、市が所有する施設で使用する電力の供給先を見直しする事や、電動スクーターの導入、電動自動車導入、公用車所有台数の削減を実施し、削減ができた。</li> <li>●環境保全への配慮を啓発する取組として実施している、「きよせの環境・川まつり」では毎年度数千人の来場があり、特に小学生や幼児親子への意識啓発効果は大きいと思われる。しかし、令和2年度の「きよせの環境・川まつり」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止をした。</li> </ul>

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和2年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けての在宅勤務の増加など市民の生活様式の変化により、近隣住民の騒音相談が増える傾向がある。家庭ごみの戸別収集が始まったことにより、野良猫がごみ集積所を荒らす相談は減っている。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	令和3年度中に、清瀬市地球温暖化対策実行計画の次期計画(令和4年度から令和8年度までの5年計画)を策定する予定である。温室効果ガス排出量を2050年までにゼロにするとの日本政府の発表が令和2年にあり、次期実行計画もそれに則した計画内容で策定をする。
	課題に対する令和4年度以降の取組	国の温室効果ガス排出量削減計画や、東京都のゼロエミッション東京戦略を参考にしながら令和3年度に策定する次期計画策定に基づき、具体的な取組を実施していく。
②	施策を進める上での課題	新型コロナウイルスの感染症収束の見通しが付かない中、市民に対する環境保全への意識啓発を継続して行っていく必要がある。
	課題に対する令和4年度以降の取組	令和3年度にWeb開催予定の「きよせの環境・川まつり」の状況を検証し、今後の環境保全活動の意識啓発についての方針について、実行委員会とともに検討を進めていく。